

# 清流

題字：芳野 充

令和5年5月30日

第77号

発行所 加来不動産㈱

発行者 加来 寛

北九州市小倉南区守恒本町1-12-23

穏やかに  
静かに  
清流のように

## 学びの「型」を循環させる

学びを深めるためには「型」があり、それを循環させることが大切です。その学びの「型」が、「学・思・行・伝」だと、素心学塾塾長の池田繁美先生から教わりました。

「学」は、勉強すること。知識・技術を学ぶのはもちろん大切です。しかし、人から好かれる魅力的な人になるために勉強することのほうが大切だと思っています。たとえば、笑顔であいさつすることや、やわらかな語調で相手が元気になる言葉をかけることなどが、良好な人間関係を築く大切な行動であることを学ぶ。いくら知識・技術が高くても、人を見下すような傲慢な人であれば、おそらく人は離れていくはずで、結果として仕事は減り、高い知識や技術を活かす機会も減るのではないのでしょうか。

「思」は、復習すること。学んだことを一度聞いて終わりにするのはなく、改めて思い返し自分のものにする。たとえば、笑顔であいさつすることが大切だ、やわらかな語調で話す、と良いコミュニケーションが取れる、と学んだとしたら、それをどうやって、どの場面で、誰にむけて実行するのかを具体的に考えることで行動にうつしやすくなります。「良い話しを聞いた」で終わらせると、歳ばかりとってしまい、魅力的な人には近づかないどころか、頭でっかちで頑固な人で終わるかもしれない。

「行」は、行動すること。学んだことや言ったことは実行しないと、いつまでも身につきません。わたしが一番大切に行っていることです。わたしは記憶力が優れているほうではありませんが、なるべくすぐに行動に移すようにしています。それは、知識や情報にも食べ物と同じく、消費期限があると感じるからです。いくら新鮮な食べ物も、立派な冷蔵庫にいれたとしても、時間がたてば残念ながら傷んで食べられなくなります。知識や情報も同じです。ですから良いと思ったことは、すぐに行動するように心がけています。わたしの周りの魅力的な人や時間（歳）とともに成長していると感じる人は、例外なく行動する人たちです。

「伝」は、伝えること。学んだことを第三者に伝えることで、自分の理解度がハッキリします。しっかり理解していないと言葉にできませんし、相手にも伝わりません。また伝えることで、「言った手前、やらないといけない」という原動力にもつながります。

毎月発行させていただいていますこの「清流」が、わたしにとって「学・思・行・伝」の場である、と痛感します。学び、復習し、行動にうつし、伝えさせていただくことで、自身を見つめ直す機会をいただいております。この学びの「型」を循環させ、少しでも魅力的な人に近づきたいと思えます。いつも読んで下さり、ありがとうございます。

加来 寛

